

第5期第9回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2021年6月28日（月） 午後2時～4時

〔場 所〕 町田市生涯学習センター 学習室1・2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：陶山慎治（会長）、古里貴士（副会長）、相澤真理、荒井仁、荒井容子、大野浩子、関村浩、堂前雅史、西澤正彦、服部くに子、山口隆三、以上11名（内リモート参加1名）

〔欠席者〕 なし

事務局：樋口センター長、持田担当課長、岡田管理係長、瀧澤事業係長、田中主事

〔傍聴人〕 1名

〔資 料〕 【1】 生涯学習審議会資料（抜粋）

【2】 東京都公民館連絡協議会委員部会資料

【3】 第8回課題資料（再送付）

1. 報告事項

（1）2021年度事務局紹介（新任職員紹介）

（2）委員の退任について（委員1名の退任を報告）

（3）センター長報告

- ・生涯学習センターも緊急事態宣言に伴い、一時閉館していた。その後、まん延防止等の措置があり、22時閉館から20時閉館となった。状況に応じ、市の方針が変わる可能性もある。
- ・デジタルデバイド対策について、電子機器を利用したデジタル化が進んでいる。デジタルが苦手な方が、恩恵を受けられないことがないよう、予算確保に動いている。
- ・ワクチンの接種会場について、現在7階ホールが集団接種会場とおり、6月1日から約400人規模で、月曜を除く週6日間の9時～21時まで使用している。

【委員質問・意見▶事務局回答】

- ・部屋の貸出は20時とあったが、施設使用料は減額されているのか。そのままなのか。▶通常の金額となっている。夜間利用者に連絡し、感染拡大防止の観点で、20時までの利用となり、金額が変わらないが利用するかを確認している。
- ・制度を整える等、減額の可能性はこの先あるのか。▶現段階ではない。利用前に必ず考え方等を伝え、了解を得た上で金額をいただく。
- ・前倒して貸出は可能か。夜の時間を早めて1時間くらい引き上げられないか。▶貸出の間の時間が、午前・午後の間で30分。午後・夜間の間で1時間で設定。その間の時間で利用者の忘れ物確認、消毒等を行っているため、繋げて貸し出すのは難しい。
- ・金額は変わらず、時間短縮という運用について。▶緊急事態宣言中は夜間の貸出を行っていなかったが、今回は時間が短くなる条件でも可能な方に貸出を行う対応に変更した。前回よりも利用可能な運用としている。

- ・他の自治体では減額したりしているが対応は厳しいのか。➡施設使用料は条例に規定されている。施設貸出は、生涯学習センター以外に、市民センター等と同じ運用であり、貸出施設全体で決定している。要望は対策会議に報告する。
- ・ワクチン接種で長期間使用となると、市民にとって大切な学ぶ権利を保障するという象徴である公民館が当たり前に使えない。少しでも使いやすい環境に整えてほしい。接種会場を他の会場に変えることも考えなくてはいけない。また、この機会で生涯学習センターを周知していくことも必要だと思う。
- ・ワクチンの接種の終わりの時期は決まっているのか。➡9月5日が目途となっているが変更もあると思われる。
- ・利用料金を安くできないとあったが、生涯学習センターから委員からの強い要望があると意見はできないか。→意見をいただいた旨伝える。

(4) 会長報告（生涯学習審議会）

- ・資料説明が主で、議論の時間が少なかったため、事務局から資料説明を行う。

【事務局】今回の審議会資料は大きく4種類に分かれている。

資料1：生涯学習審議会資料。その中で生涯学習センターの部分を抜粋したもの。

資料2：東京都公民館連絡協議会委員部会の資料。3回分の資料となっている。

資料3：第8回運営協議会課題資料。意見をまとめた資料。継続協議のため配布。

今後の進め方として2021年度の予定を添付。

<資料1の以下の内容を簡単に説明>

- ・審議会に対して行われている諮問の内容
- ・生涯学習センターのあり方検討に関連する計画等について
- ・町田市の生涯学習組織がどのように改編されてきたのかの経緯を示す図
- ・生涯学習センターの在りの見直し検討スケジュール
- ・生涯学習センターに関するこれまでの意見
- ・現状の町田市における生涯学習の見取り図
- ・生涯学習センター利用者のアンケート結果、市政モニターの結果
- ・町田市で活動している若者団体3団体に対して、ワークショップ

【会長】審議会は上部組織で運営協議会は下部組織ではないという心持を伝えた。2020年3月の審議会答申の4つの提言を中心にながら会議を進めていると説明。

【委員質問・意見➡事務局回答】

- ・今後の生涯学習センターの目指すべき姿、効率的・効果的な管理運営手法とあるが、これが諮問の回答すべきことなのか。➡はい。
- ・前回（2020年3月）の答申と、今回の答申はどういう位置づけになるのか。➡前回答申は、生涯学習センターのソフト面、事業内容の方向性の意見をいただいた。今回の答申は施設の管理運営も含めた施設の方向性について意見をいただくもの。

- ・審議会でも、利用者と近い運営協議会が感じていること伝えて良いと感じる。
- ・学校の統廃合の計画がでている。色々なことがコンパクトにまとめられ、削減されていることが目に見えてきている。具体的に、私たちに何ができるのか疑問に感じる。

【会長】施設のあり方といった観点で、小・中学校の統廃合についても、審議会や運営協議会で同時に情報共有し、議論をしていただきたいと意見を頂いた。

▶運営協議会は、生涯学習センターの事業について意見をいただき、事業をより良いものとしていくという設立の趣旨がある。それに付随する形で、学校の話題も出ることはあるが、学校の統廃合自体は別の話となる。生涯学習施設のあり方を、審議会で審議している。運営協議会でも関連して意見があれば、審議会への意見は可能と考えている。

- ・前回の答申で生涯学習センターの役割が4つ挙げられた。運営協議会で詰めていくと認識している。今回の審議会の諮問テーマが類似している。効率的・効果的な管理運営手法というものは新しいが、生涯学習センターの役割とあり方は何が違うのか分からぬ。
- ・運営協議会は、事業についてとあるが、事業は管理運営に關係してくる。施設がいずれ修繕等を行う際には施設の在り方も議論していくことになる。この先の生涯学習審議会には、ここから先は運営協議会に任せるといった土俵があつても良いと感じる。本来は生涯学習センターで行っている事業等が身近にあると、地域の雰囲気等が変わるということを運営協議会としても生涯学習審議会に意見を投げ、社会教育施設を増やしてほしい。→次の生涯学習審議会では、議論いただきたいこと等を伝え、皆様にお伝えする。

(5) 東京都公民館連絡協議会報告

○西澤委員から資料に基づき報告

- ・本日は都公連定期総会の概要を提出している。
- ・活動方針の案が出た。基本的な内容について、申し送りが来ている。
- ・公民館の世代が育つ仕掛け・仕組みをテーマに、委員部会で研修会を行うのはどうかと話が出た。その際に、小金井市公民館運営審議会委員に登壇してもらう話がでた。
- ・その後の協議会で、9月17日に日野市の中央公民館にて、「公民館を育てる仕組み、支える仕組みを考えてみよう」のテーマで研修を行うことが決定した。

2.協議事項

【会長】(6) 市政モニター、若者ワークショップ実施結果は、先ほど報告があつたので、次の議題に進む。若者や市民感情だと、人生を豊かにするために学びたい。生涯学習センターに期待したいといった意見が多くある。学んで誰かの役に立ちたいと見受けられる。先に、「課題解決を支援する」の議論を進めたい。意見の多くは「生涯学習センターで学んで、地域の課題を解決する人材になっていただきたい」ということだと思う。

【副会長】学校統廃合は（本会の）議題ではないという話だと思うが、学校統廃合は地域の大きな課題。地域に学校が無くなる、遠のくというのは大きな課題ではないか。実際、地域の課題に対して、生涯学習センターが事業として関わるのか。生涯学習センターが中心となり、住民の方と学校統廃合に関わる部署の方を集め、意見交換会（学習会のような）をするようなやり方もある。統廃合のプロセスの中で、なぜ統廃合が必要なのか等の背景を学び、学んだ中で意見を出す。行政に対して伝えていく機会を、生涯学習センターの事業として、取り組む余地があるか。地域の課題が出てきているものと結びついた事業展開。例えば、地区センターのような場所で生涯学習センターとしてなにかで

きないかと思っている。そのような形で最後に提言していくのも良いと思う。

【委員質問・意見】

- 町田市は24地区に青少年健全育成地区委員会があるが、コロナ禍の為、地区での活動ができなくなった。学校の校長先生や教師の方、自治会長、民生委員等が子ども達を中心に学び合ったり、繋がったりする場がなくなった影響は大きい。統廃合の件を見た際に、学び合う場や地域を繋ぐ拠点が無くなってしまうと感じた。

【会長】審議会では、「地域課題を解決すること」と、「どのような人材を必要としているか」ということを話している。人材バンクとなってしまうと、子ども達の指導に向いていない人も含まれてしまう。ネットワークという形で、どう対応するか。

- 昨年度、新たな学校づくりの検討部会で、統廃合ではなく、建物を新しくするための部会で委員をした。現状は2極化しており、町田第一小学校のような学校は児童数が増えているが、本町田小学校は単学級であり、1学級あるかないかの状態。そのような人数で子どもたちが学んでいて良いのか。地域の人との交流はどうするか等の検討を重ねた。学校では地域（コミュニティ）が大事ということを検討し、教室の他にコミュニティルームを作り、地域の人が入ることについて検討もしていた。生涯学習センターで学んでいる方も来ていただき、ともに学習を進められる環境づくりをしようと、今までの学校とは違うイメージで進んでいる。地域を取り込んでいける学校づくりを考えているので、学校が少なくなることへの不安感はあると思われるが、必ずしもマイナスなイメージではなく、プラスになるような報告を考えているのではないかと思う。
- 中央公民館が1箇所しかない。それに代わるもの地域に求めていくことで、学校にコミュニティルームを作っていく可能性があること、子ども等からのニーズを確認し、生涯学習センターが学習の場を作る等のやり取りが必要。
- 推進役になるボランティアコーディネーターが重要。推進役の方を確保し、整理する必要がある。減らすことに対する反対はないが、どのような問題が起きそうか把握し、対応できる体制作りが課題であり、解決していく必要があると思われる。
- 以前は地域に小・中学校があり、地域に住んでいる人は同窓生で、親も子も地域の人だったことが多い。子どもは今、バスでも通学している。地域の人たちも同窓生ではない。中学校になると、皆違う学校に行ってしまう現状もある。統廃合が始まると通学範囲が広がり、学校でコミュニティルームを作つて、近所に呼び込みをしても来ないと思われる。その際に、学校と地域の繋がりをどのようにすべきか。統廃合前に活動していた方は、統合した結果、以前と異なる場所での活動になり、自分達の世界でなくなる。その方たちをどうするのか考えることが、生涯学習センターの役割と感じる。
- 統廃合で、繋がりが希薄になってしまう。新たに人材ネットワークを作る必要がある。
- 裾野を広げることについて、生涯学習センターで人材を育成ではなく、課題意識を支えることが生涯学習センターの役割だと思う。

【会長】次のテーマ「学びの裾野を広げる」に進む。

- 時代は、ITやAI等を生活の中に浸透させている状態。生活の中に浸透しているのに、生涯学習における物理的な場を提供することは必要なのか。
- 建物にこだわらず、色々な発信をしていくこともある。一方で、先ほどセンター長から話があったとおり、デジタルデバイド対策をどうするかということもある。
- 生涯学習のできる範囲の定義が必要。人を集めることだけが活動ではない。

- ・大学でもオンラインで行っているが、大変な問題である。オンラインの良い箇所はあるが、教育や文化は人と人が会い、コミュニティを作っていくことが大事。
- ・どう組み合わせるかが重要。バランスが大切。どう定義していくかが重要。
- ・デジタル化とデジタルデバイド対策はやらなくてはいけない課題である。時代が進み、取り残されないように対策が必要だが、それだけでいいわけではない。
- ・ＩＣＴ化し、裾野を広げることが必要。広がった裾野にアクセスできない人をどうするか議論が必要。全員が関わるように裾野を広げていくことが望まれる。
- ・高齢者や障がいをもつ方等をどう掬い上げていくのかも考える必要がある。
- ・効率化は、進めていくと誰かが置いてかれてしまう。便利かつ手っ取り早いが、使える人にとっては有効だが使えない人にとっては見捨てられたと思ってしまう。
- ・教室に座り、誰かの講義を受けることだけが学びではない。地域活動の中で、子ども達が自然に学び、見つけることも大切。そのようなことで裾野を広げる。
- ・今後、アクティブラーニングが流行ると、より能動的な学びが大事になる。
- ・参加者を増やすことが重要。そのために、広報まちだによる周知が良い。
- ・まちだ市民大学を学んだ後、お互いに知り合いになって学んだり活動したり、グループを作る手伝いをすることで、事務局も努力している。直接ということを意識していると思われるが、そこに至るまでの過程をネットでできなかと個人的には思う。

【副会長】コロナ禍でオンラインを活用することが増え、今まで参加していない方が参加するようになったことは大事な点。併せて、対面（今までの学びの形）のバランスをどうとするかが大切だと思う。学校に通っている若者の利用は少ない。生涯学習センターとして、学びの裾野を広げるということは、若年層の人がより使いやすい生涯学習センターとして、どのように裾野を広げていくのか。今まで通りでいくのか。

- ・若い人たちから出た意見をどう反映するのか疑問。ＳＮＳで発信しても上手く繋がらないと思う。そうなると学校で宣伝するのが良いのではないか。広報まちだを見ている方が一番多いと思うが、大変な人ほど余裕が無く、見ていない。周りにいる人達が学び、気づく人をどう増やしていくか。字が書けない方や日本語が話せない方がいる中で伝えていくには、学びの場の数をどう増やすかだと思う。
- ・誰もが学べる環境を作るセクションで、誰を対象とするか。高齢者や障がいをもつ方、子育て中の親、外国の方等を意識していた。現在は、高齢の方が繰り返し利用していると思う。プログラムに漏れた人ではなく、生涯学習センターを知らない人に対してどうするのか。若者が生涯学習センターを知り、利用することに対してどのようなアプローチがあるか。本当に伝えたい人が情報をキャッチできないことに対して、知ってもらう工夫が必要。
- ・10代は、SNS あまり生涯学習センターをフォローしないと思う。
- ・Wi-Fiを設置すること自体に若者が参加する。Wi-Fiを設置したのは私たちと認識してもらうことで、利用促進にも繋がるのではないかと審議会で意見があった。若者が生涯学習センターを知ってもらうために、事前に関わる仕組みが重要。
- ・地域で活動している大学生が多くいる。3月頃に生涯学習センターでガクマチ EXPOを行っている。日頃も生涯学習センターを使うかとなるとそうでもない。学生は、地域に向けた活動を多くしている。生涯学習センターですべて行うのではなく、活動している方と手を組み、活動している同士を結びつけることが重要。

- ・相模原・町田大学地域コンソーシアムというものがある。生涯学習センターも色々な形で関わっている。学生に情報を発信することはできる状態ではある。
- ・大学生は忙しい。大学生が対象であれば、未来に役立つ講座でないと来ない。
- ・若者はＩＴに強いと思われているが、実はそうではない現状がある。

【会長】裾野を広げる中の対象が、若者・学生とあったが、資料内の学生のようなイメージではない。若者でも情報を受け取るのに、差が生じていることもあると意見もでた。生涯学習センターで実施しているまちチャレでも、市民から色々なアイディアが出ていたが、その中で若者の向けの講座等も出ていた。まちチャレの卒業生が、地域課題を解決するようになるという流れも良いと思う。改めて事務局から意見提出のメールがあった際は、引き続き協力をお願いしたい。最後に事務局から 2021 年度の開催日程を報告。

【事務局】資料の 2021 年度の予定を記載。開催時間については、いずれも 14 時～16 時。コロナの影響等で変更の可能性もあるが、このスケジュールで進めていく予定。今年度は、リモートと併用という形で会議を開催する。先ほどの委員退任の件となるが、退任により、委員人数が 11 名となった。設置要綱上、15 名以内と明記。議論も中間に差し掛かっているため、今回は退任委員の枠を欠員にしたい。ご意見等はあるか。

【会長】過去のことすべて把握するというのは、専任された方も厳しいと思われる。本日のメンバーで開催するということで良いか。（特になし）

【副会長】限られた時間の中で、議論を終えるのは難しい状況である。次回も「学びの裾野を広げる」ことについて、議論を重ねていきたい。

3.その他

事務局より次回日程の説明